

1. 評価報告概要表

作成日 2007年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1072600578
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	草津温泉湯治館そよ風
所在地	群馬県吾妻郡草津町草津464-702 (電 話) 0279-80-4141

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(19 年 11月 12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算	12人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨構造造り		
	3 階建て	2 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費・温泉使用料
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000	有りの場合 償却の有無	有:2年
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日 1200 円		

(4)利用者の概要(11月 12日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.9 歳	最低 81 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	草津こまくさ病院 芝歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

草津温泉街の近くに位置し、源泉を取り入れた掛け流しの風呂は、利用者の好評を博している。ホームは、隣接して病院があり緊急時にはすぐに対応出来る体制にある。自治会や町が主催する各種の祭りに参加し、小・中学校の運動会の参観、町の文化祭に作品を出展するなどあらゆる機会を捉えて地域との交流促進に努めている。職員は、利用者と相談し、時にはメニューにないうどん作りや野菜サラダの味付けを教わり、大根や白菜漬けを一緒に行い、「美味しいね」と言われるのを生きがいにしている利用者もいる等、利用者と職員が共に支え合う関係を築くよう心がけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を職員に配布し、改善課題である、介護計画の定期的な見直し、地域のイベント参加等の改善に取り組み、利用者がその人らしく楽しく生活出来るよう努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価に当たっては、職員の意見を聞き取りまとめ、玄関周りの改善を行った。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議を隔月に開催し、利用者の状況や行事開催状況を報告すると共に、外部評価の結果を踏まえ改善に向けての取り組み等を報告し、意見や要望をお聞きしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	玄関に意見箱を設置すると共に、面会時に意見や要望をお聞きしている。また、「そよ風新聞」の他、利用者毎の行事出席写真、月毎の生活状況、体調等を記載した報告書を家族に送付し、その都度ご意見や要望をお聞きし、運営に反映するよう努めている。
	「そよ風」主催の納涼祭に多数の町民の方々が参加し盛大に開催されている。また、自治会主催の白根神社祭りや町主催の温泉祭りの見物、小・中学校の運動会の参観、町の文化祭への編み物・油絵・顔形に作ったカボチャの出展、福祉センター主催の福祉イベントに参加等あらゆる機会を捉え地域との交流促進に努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、平成19年4月に前の経営者から経営を引き継ぐ際に、職員会議で検討・見直しを行い、地域の人々との交流を通じ、家庭生活の持続を重点とした従前の理念を引き続き理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りの時に、司会が理念を読みあげ意識づけを行い、カンファレンスや夕礼の時に、理念に添った具体的な介護について職員で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「そよ風」主催の納涼祭に町民の方々が参加したり、自治会主催の白根神社祭りや町主催の湯畑温泉祭りの見物に行ったり、小・中学校の運動会の参観に行ったり、草津町の文化祭に利用者の編み物・油絵・カボチャの作品の出展をしたり、福祉センター主催の福祉イベントに参加したり等、あらゆる機会を捉え地域との交流促進を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を職員に配布し、職員で話し合い、介護計画の定期的な見直し、地域のイベント参加等具体的な改善に取り組んでいる。自己評価は、職員の意見を聴取し取りまとめ、観葉植物やソファを配置し玄関周りの改善等を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月に開催し、ホームから利用者の状況や行事の報告を行うと共に、外部評価の結果を踏まえて改善への取り組みを報告し、意見や要望をお聞きしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町には、提出書類は郵送ではなく直接持参し担当者とは行き来する機会を持ち、権利擁護や管理者の変更届の記載方法等について相談や質問を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月写真を取り入れた「そよかぜ新聞」と利用者毎の行事の写真、生活状況、体調等を記載した報告書、毎月の利用料請求書を送付している。また、金銭管理は、小口預り金処理し、出納台帳のコピーにレシートを添付し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見は、あらゆる機会にいただけるよう、面会時にお聞きしたり、玄関に提案箱を設置している。重要事項説明書には、ホーム内相談窓口、外部の相談窓口を記載し、説明を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の利用者の介護度に差異があるため職員の異動は慎重に扱い利用者のダメージを防ぐよう努めている。また、カンファレンスは2ユニット一緒に行い、申し送り時に反省点等を話し合い、職員同士のコミュニケーションを緊密なものとし、利用者が安心して暮らせるよう支援している。新規採用職員は、面会時に家族に紹介する他、「そよ風新聞」に顔写真を掲載し紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、介護の基礎知識の冊子を配り説明している。新人研修期間である3ヶ月間は、介護報告書を毎日作成し、提出している。ホームでは、毎月の最終火曜日の職員会議の後に勉強会を開き、テーマは職員のアンケートにより決めている。外部研修受講後は、報告書を作成し、職員会議で発表し、資料を必要とする職員は自由にコピー出来るよう学習ファイルに綴じている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内のあるグループホームを見学し、情報交換を行っている。母体の群馬ブロック(太田、桐生、草津のそよ風)会議を月に1回開催し、情報交換等を行っている。	○	地域の同業者との交流の機会を多くもち、サービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人や家族にホーム見学をしてもらい、ホームの日常生活を説明し、ホームでお茶を一緒に飲む等雰囲気に慣れるよう対応している。また、併設のデイサービスやショートステイ利用者が、ホームに入居する例が多く、普段からデイサービスやショートステイ利用者との交流に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、時には献立にないメニューを利用者と相談し、利用者からうどん作りや野菜サラダの味付けを教わったり、大根や白菜漬けを一緒に行って、「美味しい」と言われるのを生きがいにしている利用者もいるなど共に支え合う関係を築くよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の出来ない利用者は、例えば排尿には立ち上がる等の仕草をしてシグナルを出しており、そのシグナルを職員が把握して、見落とさないよう努めている。また、意思表示の可能な利用者からは、希望を聞くなど意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居予定者の職業歴、生活環境等を実地調査し、家族や本人の希望や要望をお聞きし介護計画を作成している。作成した介護計画は、記名捺印を頂きそのコピーを家族に送付している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の3ヶ月に1回の見直しの他、利用者の状況の変化に応じ随時見直しを行っている。見直しは、職員の意見や介護日誌に基づき、家族の希望をお聞きし、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院、専門病院、かかりつけ医への病状の説明や送迎、日用品の買い物の送迎等柔軟に対応している。また、併設のショートステイで行うリハビリにホームの利用者が参加したり、デイサービスの利用者がホームを訪問することにより、相互の交流を行い友好関係を広げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、利用者や家族の意向をお聞きし、かかりつけ医に受診している。また、毎月、協力医療機関の定期受診を実施し、全利用者が受診しその結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル担当者を中心に、医師から終末期を迎えていると言われた過去の事例を踏まえ勉強会を開催し、終末期への対応や介護の在り方等につき職員の意識の向上を図っている。家族の意向、希望を聞き、医師の指導の下で、専任職員を中心に、全員がケアにあたっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の訴えには事務室や居室で聞いている。居室への入室時は、ノックや声かけをしている。個人情報、個人情報保護方針に基づき持ち出し禁止とし、事務室の書棚に保管し、廃棄書類はシュレッターにかけている。また、ボランティアには、守秘の同意を頂いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	場所間違いを防ぐため、トイレや居室の名札は、家庭的な雰囲気や壊さずに利用者名を貼り絵文字で表示している。化粧担当職員を決めて、買い物や地域の行事の外出時には、利用者は口紅や化粧をし出かけている。入浴や食事は、無理強いすることなく一人ひとりの状態や思いを大切に介護支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が栽培管理した借地の畑や敷地内の菜園で収穫した新鮮野菜を、食材に使用し、一緒に調理し味見を行っている。食事は無理強いすることなく、会話を交え食事を採れるよう工夫している。給食委員会の提案による、数種類の手作り菓子の中から好きな物を選べる「おやつバイキング」を行うなど楽しめる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	草津の源泉を取り入れた掛け流しの風呂や、真水を使用した風呂が有り、身体状況や利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。入浴を億劫がる利用者に対しては、無理強いすることなく、気分を変えるよう時間をおいたり、言葉かけをして入浴出来るよう対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業をしていた利用者の指導や助言で畑や菜園での野菜の栽培管理を行ったり、日頃から配膳・下膳や食器拭き、洗濯物たたみ等利用者に合った役割が自然とできている。また、利用者と職員で、油絵、模造紙大の紙芝居の作成、貼り絵を楽しんだり、焼き芋パーティー、流しそうめん、納涼祭や運動会等季節毎に多くの行事を取り入れた支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は、町内の散歩、木陰を利用した外気浴、ザスパ草津のサッカー試合の応援、地域のお祭りや紅葉狩り等機会あるごとに外出をし、冬は一面の雪景色で散歩も出来ないため、毎週土曜日を買い物の日と定め、スーパーでの買い物を中心とした外出を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけておらず玄関や階段は自由に通行できる。帰宅願望の利用者には、家族からの電話をかけて頂き、場所を変えてお茶を楽しむ等、その解消に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会が設置され、マニュアルを作成し、職員の連絡網ができています。防火管理者を選任し、消防計画に基づき、消防署による避難訓練、消火栓の使い方、火災報知器の取り扱い方の指導を受けています。しかし、災害時に地域の人々の協力が得られるような働きかけはしていない。	○	災害時等に地域の人々の協力が得られるよう働きかけを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託の栄養士が、摂取カロリーを計算している。モニタリングにより、利用者一人ひとりの水分摂取量や食事摂取量を介護記録に記入し、一日の全体を把握するため一覧表に記載している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には、ソファや書棚、テレビ等が配置され、利用者の身体状況に合わせ回転椅子や固定椅子が置かれている。また熱帯産の観葉植物や花が飾られ、エレベーターホールには喫煙所も設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた炬燵、冷蔵庫、ベッドやタンスが持ち込まれ、家族の写真や観葉植物、草花が飾られている。また、居室によっては加湿器が配置されたり、消臭剤が使用される等居室環境の整備に配慮されている。		